

STRIVE

UTSUNOMIYA BREX 2023-24

OFFICIAL FUNCLUB CLUB-REX

会報誌『ストライブ』

04

【チャンピオンシップ直前インタビュー】

#9 遠藤 祐亮 / #13 渡邊 裕規



#9

遠藤 祐亮
YUSUKE ENDO

「チャンピオンシップを
早くやりたい」という
期待感が一番です。

※このインタビューは、4月3日(水)に実施しました。

——今シーズンこれまでの戦いを振り返っていかがですか。

最初は満足のいかないプレーが目立ったり、負けに繋がってしまうこともあったのですが、シーズンを通してチーム力を上げることを目標にやってきて、それが今、実現できているように思います。

「チームとして成長しているな」と、毎試合強く感じながら戦えていますし、それがここまで結果に現れているのは、正直、シーズン前に予想していた以上かなと思います。

——チャンピオンシップ出場が決まった時はどんな心境でしたか。

僕がプロになってからチャンピオンシップに行けないという経験は昨年が2回目だったので、1回目はプロ1年目だったので、まだ分からないことも多く、悔しい気持ちはあまりありませんでした。

ただ、昨シーズンにチャンピオンシップ進出を逃した時は、本当に悔しさが大きかったのを覚えていますし、昨年からいるメンバーは同じ気持ちだったと思います。なので、チャンピオンシップが決まった瞬間は、それを晴らすことができた嬉しさがありました。

——昨シーズンはチャンピオンシップ出場を逃した中で、今シーズンはチーム最多連勝記録の更新、そして現在41勝7敗と、好成績での出場決定となった要因はなんだと思いますか。

今シーズンから加入したD・J #25 (ニュービル

選手)とギャビン(＃33 エドワーズ選手)というベテランの選手がいることはもちろん大きいです。

ただ、厳しい展開の場面、例えば終盤に数点差を争っている時や逆転されそうな時などでも、焦ることなく、チームとしてやるべきことをやろうというコミュニケーションが自然と取れているので、そのようなところが昨シーズンを比べても目立っていますし、今の良い結果にも繋がっていると思います。

——今シーズンの全試合に出場している＃9 遠藤選手ですが、現在のご自身のコンディションはいかがですか。

試合が短期間で続く時は少し疲れも出ますが、そこで弱音を吐く選手はブルックスには一人もないので、自然と気持ちも強くなる環境だと思います。なので、今は気持ちも含めて、良いコンディションで毎試合臨んでいます。

——ここから先の試合スケジュールもタイトになりますが、リフレッシュ方法やルーティンなどがありますか。

趣味がないので、家にいることしかないんです(笑)。車の運転は好きなので、大音量で好きな音楽を聞きながらドライブするのは、何も考えず集中もできるし、良いリフレッシュにはなっていますね。

——ゲームの勢いが相手に向き始めている時や、ここで得点が欲しいという場面での＃9 遠藤選手の活躍もたくさんありました。

個人成績でもシュート成功率が昨シーズンと比べても高く、3Pシュートランキングも現在3位と好成績です。何かご自身の中で意識しているメンタルや準備があったり、または何か変えた部分はありますか。



自分で変えたというよりは、D・J(＃25 ニュービル選手)が加入したことによって、僕に対する相手ディフェンスのプレッシャーが弱くなるチャンスが生まれたり、攻め方によっては、アイザック(＃42 フォトウ選手)や比江島(＃6 比江島慎選手)にボールが集まることも多いので、僕のマークが薄れた瞬間にパスを出してもらい、狙いやすいポイントからシュートに入る機会が増えたことが理由だと思います。

重要な場面でパスがくるというのは、チーム間の信頼があつてこそだと思うので、そのような時は、絶対に決める」というメンタルでシュートを打っています。

——今シーズンのホームゲームは、全試合がほぼ満員、チケットも即完売というゲームも多かったです。実際にファンの方も増えていますが、その実感や応援の熱量が増している感覚はありますか。

すごく感じています。千葉が地元なんですけど、地元の知り合いからも「チケットが取れない」と言われますし(笑)。毎試合のように満員の会場で試合ができることは大変嬉しいことですし、来てくれた方に「また観に来たい」という気持ちになつてもらえるようなパフォーマンスを選手として心掛けていきたいと思っています。

——お子さんもバスケットをされていると思いますが、お父さんの活躍について何か話したりはしますか。

「今日はたくさん点とったね」とか「遠くからシュート決めたね」と試合後に喜んでくれたりするので、そういったところは嬉しいですね。

——チャンピオンシップへ向けて、楽しみ、緊張、期待感など、どんな感情が今一番強いですか。

「早くやりたいな」という期待感が一番ですね。チャンピオンシップは、何があるか分からない中で戦う独特な緊張感や集中力はあるのですが、そのような環境で、今のブレイクスがどんなチーム力や強さを発揮するのか、それを早く他のチームにも見せたいという期待感が強いです！

——最後にファンの皆さんへメッセージをお願いします。

ホームゲームはもちろんですが、アウェーであってもアウェーと感じないぐらい多くの方が応援に来て、一緒に戦ってくれているということがブレイクスの強さの一つです。

チャンピオンシップ出場は決まりましたが、残りの試合も最高のパフォーマンスが見せられるように、みなさんのパワーを力に変えて頑張ります。そして、チャンピオンシップのクォーターファイナル、セミファイナルのホーム開催を目指して、勝ちを重ねていきたいと思っています。最後まで一緒に戦いましょう！



#13

渡邊 裕規

HIRONORI WATANABE

会場の歓声や
最大のアドバンテージ。

※このインタビューは、4月4日(木)に実施しました。

——今シーズンこれまでの戦いを振り返っていかがですか。

毎試合の課題を修正しながら、良くなっている部分が形になってきているので、雰囲気も含めて良いと思います。

連勝や戦績に満足している選手は一人もいないですし、試合を追うごとに、目の前の一試合一試合に向き合うことができているのも、チームとしては大変良いのではないかなと思います。

——昨シーズンはチャンピオンシップ出場を逃した中で、今シーズンはチーム最多連勝記録の更新、そして現在41勝7敗と、好成績での出場決定となった要因はなんだと思いますか。

昨シーズンからいるメンバーは、チャンピオンシップを逃したという悔しい経験をしているので、そこは一つの原動力になっていると思います。今シーズンから加入したメンバーにも、優勝を目指して戦うという思いや共有ができていますし、それを体現するために取り組めていることが良い結果に結びついていると思います。

——チャンピオンシップ出場を決めた3月30日(土)の試合では、#13 渡邊選手が6本の3Pシュートを決めるなど、まさに「ナベタイム」にファンみなさんも大興奮のシーンだったと思います。この試合を振り返っていただけますか。

チームとしては、3月27日(水)の千葉J戦の上向きになっていた流れをそのまま持っていくことができたのは良かったと思います。個人的には、天皇杯の悔しさがあつたと思います。個人的には、天皇杯の悔しさがあつたと思います。個人的には、天皇杯の悔しさがあつたと思います。

晴らしたいという気持ちは大きくありました。

ベテランの西村選手（#11 西村 文男選手）などが目の前で活躍して、千葉Jが追いついていく展開を僕はベンチから見ていたので、その悔しさは一つのきつかけになったと思っています。

限られたプレー時間の中でも、結果を残さなければならぬという役割は感じていますし、天皇杯の千葉J戦以降、よりその思いが強くなったので、このような形で勝利に貢献できたことは良かったです。天皇杯の敗退は、僕の中では良い刺激になったと思っています。

——ここから先の試合スケジュールもタイトになりますが、最近のリフレッシュ方法はありますか。

時間もあまりないので、特にこれといったはないですね。美味しいものを食べるくらいですかね。去年のこの時期は食事制限や節制も少しいたんですが、あまり体調が良くなかったので、今年は何も制限なく、好きなものを食べています（笑）。

また、試合の移動は身体の負担もあるので大変ですが、アウエーに行く環境が変わったり、気分転換にもなるので、良いリフレッシュになっているかなと思います。

——今シーズンは新加入した#25 ニュービル選手、#33 エドワーズ選手といった主軸となるベテラン選手に加え、若手選手も一丸となって戦ってきている印象があります。今シーズンから加入したメンバーの存在や役割は#13 渡邊選手から見えていけますか。

相手にいたら嫌な選手で、そんな選手たちが味方になってくれたのは本当に心強いですし、チームとしても大きなことです。

若手選手も、練習やトレーニングでは先陣をきって取り組んでくれたり、試合でも会場の雰囲気を変えたり、盛り上げてくれるような、若い彼らにしかできないプレーを見せてくれるので、頑張ってくれていると思います。

——シーズン中盤では怪我をチーム全体でカバーしあって勝利をつかみ取ったり、接戦で勝利したりと、タフな試合も多かったと思います。今シーズンのプレックスの強みはなんだと思いますか。

昨シーズンはそのような場面で崩れることがあったんですが、今シーズンはその勝負強さというものがあるなと感じます。

新加入したD・J（#25 ニュービル選手）やギャビン（#33 エドワーズ選手）の経験値というものもそうですが、公輔さん（#10 竹内 公輔選手）がメンバーの怪我をカバーして気持ちで見せてくれたりと、スキルや気持ちなど全てを含めた総合力というのが、今シーズンの勝負強さにも繋がっていると思います。

——チャンピオンシップに向けて、チームとして更に伸ばしていきたい、または伸ばしていくことが出来る部分はありますか。

一番大事なのはコンディションですね。技術面やチーム力は、シーズンを通して積み上げてこれ





ているので、それを出すために、モチベーションを含めて勝つためのコンディションを整えていくかだと思っています。

終盤は疲労も溜まったり、集中力も切れやすくなるので、残りの試合で、更に成長に向けて、良い所、悪かった所を詰めていければと思います。

——今シーズンはチャンピオンシップをホームで戦うことが可能性が高いです。ホームで戦える



このアドバンテージはどんな部分でしょうか。

自分たちはチャンピオンシップをアウェイで戦って優勝した経験があるので、会場や雰囲気は全てではないですが、会場の歓声や一体感はホームの方がもちろん強いので、後押しという面では最大のアドバンテージだと思います。

また、チャンピオンシップの場合は、これまでのレギュラーシーズンをファンのみなさんと一

緒に戦ってつかみ取ったというホームコートなので、その思いや価値もお互いに感じられると思いますね。

——チャンピオンシップへ向けて、楽しみ、緊張、期待感など、どんな感情が今一番強いですか。

不安が一番ですね。レギュラーシーズンで戦績が良かったチームがチャンピオンシップで崩れるということも見てきましたし、まだ東地区の優勝が決まったわけではないので、まずは段階を踏んで、目の前の目標をクリアしていくことが大切なと思います。

今は、東地区の優勝を確実に掴む、ということを目指していきます。良い不安というのはないと思いますが、責任感や期待感も全て含んだ不安という感じです。

——最後にファンの皆さんへメッセージをお願いします。

いつも応援ありがとうございます。残り少ないシーズンで、このメンバー、チームでのバスケットを皆さんには最後まで楽しんでいただきたいと思っています。そのためにも、僕らも最大限のパフォーマンスを出せるよう、毎試合全力で臨みます。会場に来ていただく方も、画面越しに応援してください。優勝に向けて同じ気持ちで一緒に戦っていきましょう！



オフィシャルファンクラブ CLUB-REX
2023-24 シーズン 会報誌『ストライプ』

vol.04

STAFF

- Publisher
藤本 光正
FUJIMOTO MITSUMASA
- Editor
小野 順一
JUNICHI ONO
- Writer
飯野 沙也加
SAYAKA IINO
- Designer
久保 成稔
MASATOSHI KUBO

- Photographer
中村 斗音
TOON NAKAMURA
- 手塚 雅昭
MASAAKI TEZUKA
- 茂野 憲一
NORIKAZU SHIGENO
- 松浦 あき
AKI MATSUURA

PUBLISHING OFFICE

株式会社 栃木ブレックス
〒320-0066
栃木県宇都宮市駒生 2-10-28 1階
<https://www.utsunomiyabrex.com/>
TEL: 028-612-6735